

1 付託事件審査

○委員長(工藤 篤) おはようございます。

ただいまから経済建設常任委員会を開会いたします。

まず議題の確認ですが、配付のとおり進めたいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(工藤 篤) 異議がありませんので、そのように進めさせていただきます。

まず、1の付託事件審査でございますが、提出者の説明については省略したいと思います。これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(工藤 篤) 異議がありませんので、そのように決定いたしました。

それでは、議案第1号平成25年度函館市一般会計補正予算中当委員会付託部分以下議案11件を一括議題といたします。

それでは質疑のほうですがありませんでしょうか。福島委員。

○福島 恭二委員 おはようございます。港湾のですね、特別会計予算、議案第2号ですね。これについてちょっと前回も委員協議会で質問した経過がございますので、若干質問させていただきます。

前回の委員協議会でこの港湾関連用地の埋設物について、埋設物があるということに基づく土地に対する支障物が出たということで、相手方と話しをしているということで概略を説明していただいたわけですが、今度は議案として出てまいりましたので、若干質問をさせていただきたいと思います。市としては、この問題に対して、弁護士あるいはまた不動産鑑定士と相談しながら相手と協議を進めるということでした。今回、相手側と当然、信頼回復の中でいろいろと話し合いがなされてきたものだと思います。結果として和解ということで議案として提出されたわけであります。この中で資料によりますと、和解案として金額として函館水産物株式会社には合計で3,700万円ですね、3,700何がしですが、約3,700万円、北冷蔵株式会社へは合計で2,865万9,000円という形になって、支払うことになっておりますけれども、この各々のですね、算定の方法について今一度説明をしていただきたいと思いますというふうに思いますのでよろしく願いいたします。

○港湾空港部港湾空港振興課長(米田 剛) 各々の費用の算定方法についてのお尋ねでございます。

今回提出してございます定例会提出案件資料4ページに記載してございます(3)支払額の内訳にございますとおり、費用は3項目からなっておりまして、まず函館水産物株式会社について1つ目の土地売却収入分、これは土地の利用価値の低下相当額ですが、不動産鑑定士に調査を依頼し、埋設物が存在することで生じる土地全体の利用効率などを勘案して、土地全体の利用が阻害される率、阻害率を7%とし、これをもとに土地の売買価格、1億9,439万3,520円に7%を乗じまして1,360万7,546円と算定したところでございます。2つ目の埋設物の位置を確定するためのボーリング調査費分につきましては、相手方の設計図書により、内容などを確認し、498万2,250円と算定したところでございます。3つ目の設計変更費及び工事費の増額分につきましては、埋設物が存在することで当初予定していた倉庫の建設

計画を変更せざるを得ない状況となったため、相手方の設計図書により内容などを確認し、設計変更分として168万円、増築分として5,586万円と算定したところでございますが、なお、増築分につきましては、不動産鑑定士に調査を依頼いたしまして、増築部分の利用価値が70%と算定されたことから、100%に満たない30%が相手方にとっての損失率となり、これをもとに増築に係る費用5,586万円に30%を乗じ、1,675万8,000円と算定し、先ほど申し上げました設計変更分168万円と合わせて、表に記載の1,843万8,000円となるものでございます。したがって、函館水産物株式会社への支払額は合計で3,702万7,796円となります。次に、北冷蔵株式会社についてでございますが、同様の考え方をを用いまして、土地の利用価値の低下相当額におきましては、土地全体の利用が阻害される率、阻害率を21%とし、これをもとに土地の売買価格6,477万3,000円に21%を乗じ、1,360万2,330円と算定したところでございます。ボーリング調査費については、相手方の設計図書により内容などを確認し、466万2,000円と算定したところでございます。工事費の増額分につきましては、埋設物が存在することで倉庫の基礎工事の施工方法を変更せざるを得ない状況となったため、相手方の設計図書により内容などを確認しまして1,039万5,000円と算定したものでございます。従いまして、北冷蔵株式会社への支払額は合計で2,865万9,330円となります。

以上でございます。

○**福島 恭二委員** 大体わかりましたけれどもですね、ちょっと改めてお聞きしますけれども、当初、売却した先の用地は、それぞれ函館水産物株式会社と北冷蔵株式会社に販売した用地の面積はもちろん違うわけですね。違うんだけれども、資料によりますと、土地の売却分で利用価値低下相当分として約1,300万円、片方は大きいにもかかわらず1,360万7,000円と、それから北冷蔵株式会社のほうは1,360万2,000円というふうになっているもんですからね。これだけ単純に見ますと、大きいのに何で小さいほうがこんなに、金額が同じなんだと思ったりもするんだけれども。まあ、今説明されたように、土地の利用価値の低下分というふうな説明がありましたんで、その中でその分は阻害率という説明がありましたね、阻害率だという言葉が出てまいりましたんで、この阻害率、水産物株式会社では7%ですか、それから北冷蔵では21%という説明がございました。したがって、その違いというか、それについて改めてちょっとお伺いしたいと思います。説明お願いいたします。

○**港湾空港部港湾空港振興課長（米田 剛）** 各相手方によっての阻害率の違いについてのお尋ねでございます。

阻害率を算定する考え方につきましては、埋設物が存在する部分と埋設物が存在しない部分のそれぞれの面積に対し、不動産鑑定士が査定したそれぞれの土地の価値の率を乗じて算定するものでございます。函館水産物と北冷蔵の2社における阻害率の違いは、単純に大小ということではなく、土地全体の面積に占める埋設物が存在する部分の面積の割合が大きな要因となっているものでありまして、北冷蔵のほうは土地全体の面積のうち埋設物が存在する部分の占める割合が函館水産物より大きいことから阻害率が大きくなるものでございます。

○**福島 恭二委員** わかりました。そうすると、これはともあれ阻害率ということは、土地の価値の低下分ですね、ということで7%と21%になったと。北冷蔵は用地は狭いけれども、いわゆる阻害率が21%と多く障害物があったと、こういうことですね。それでまあ7%と21%ということになったと。これは

あくまでも鑑定士の、専門家の判断によるものだというふうに思いますので、妥当なものなんだろうと、こう思っておりますけれども。ともあれ、阻害率は土地の利用率の低下することに対する、まあ和解金だと。それから、損失率ということもあったんですけども、これは価値の低下によって変更せざるを得なくなったと、こういうことに対する和解金だと、こういう理解をしていいと思いますけれども、まあ、そういうものだという事でございました。

次に、設計変更分の費用、工事費ですけれどもですね、函館水産物株式会社は埋設物が存在することで当初予定していた倉庫の建設計画を変更せざるを得ない状況になったと。そのため、設計変更分の費用がかかるということはわかりますけれどもね。この増築分というのは相手側の都合ではないのかなと、こう思うんですよね。しかしながら、これについても和解金を払うと、こういうことになったということですが、その増築分の考え方についてももう少し詳しく説明していただけないでしょうか。

○**港湾空港部港湾空港振興課長（米田 剛）** 函館水産物の増築分に係る考え方についてのお尋ねでございます。

相手方に説明する際に使用しましたこちらのパネルを使って御説明いたします。函館水産物の設計変更につきましては、埋設物を避けて倉庫を建設するために、こちらが埋設物のラインになりますが、やむを得ず当初のA足すBの形状から埋設物が存在するA部分をA'の位置へ移動することで整形に比べ利用効率の劣るL字型の形状になるためC部分を増築することになったものでございます。このC部分を増築することによりまして建物の面積が増加し、相手方にも不利益が生じることから建築費用に対する市の負担割合について不動産鑑定士に調査を依頼したところ、不動産鑑定理論による不整形の土地を整形にする際の考え方を適用し、増築部分の価値を100%とした場合に相手方に帰属する利益を70%、100%に満たない30%が相手方にとっての損失相当分と算定してもらったところでございます。

以上でございます。

○**福島 恭二委員** わかりました。ただ、今言ったように結果としてそういう変形なものになったと、せざるを得なくなったと。まあ、したがって、使用効率って言うんですか、悪くなるんでその分を増築したいと、こういうことになったということですから、これも和解という前提での話し合いの中だとすれば、一定程度相手の意向に沿った話し合いをせざるを得なかったものだというふうには理解をいたしますけれども。これもまた、不動産鑑定士等々の判断の中でなされたことだろうと、こう思いますんで、やむを得ないものなのかなというふうに理解をせざるを得ません。ただ、前回は申しましたが、この土地の販売の時に、私ども議会としてもそうした障害物のある、いわゆる仮護岸なども一緒に埋め立てその位置などですね、明確に示す、我々も説明をもっと皆さんから求めるべきであったんですけども、それみなされず、また何の疑問も持たず販売をすることに同意してきたということからすれば、私ども議会としてもこういったことの見落としがあったのかなというふうに思わざるを得ないわけですが、まあ、結果的には言うならばこの利用価値の低い土地を通常の単価で売り払ったものだというふうに言わざるを得ないんですね。そうすると今回、幸いなことに相手方と和解という形で処理をされたということですから、この点については裁判問題にせずしてこういう形で終わることになったということは不幸中の幸いと言いますか、なのかなというふうに理解をせざるを得ません。したがってですね、前回は説明をされましたけれども、今回のこの起こった要因はですね、埋設物について相手方へ説明す

る際にできることならば、重要事項調書といった文書などもですね、付けながら説明をすれば良かったんでしょけれども、碎石程度のものであるなどのようなことを口頭で説明をしたということが結果としてこういった問題になったのではないかと思うわけでございまして、しかしながら、私ども議会側としても受け止めるのはですね、とは言うものの、当然内部的にはですね、こういった、もっと具体的に詳しく説明する資料などがあってですね、説明をするものではないのなかと、こう思う時にこうしたさらに詳しい説明をできなかったという理由って言いますかね、背景と言うんですか、あったのかないのかわかりませんけれども、そういったことはなぜできなかったのかと、できなかったという背景についても説明できるのであれば説明してほしいなというふうに思うんですけどどうですか、それは。

○**港湾空港部長（平井 等）** この問題が起こった背景についてのお尋ねでございますけれども、この分譲地をまず造成に着手したっていうのが平成5年、完成したのが平成13年、非常に年月がかかっているわけですが、もともと私ども職員の経験からこうした仮護岸についてですね、建物を建設する際には支障がないという認識でいたっていうのがそもそも根本的な原因であったというふうに考えてございます。それにつけてもですね、造成、完成からさらに販売に至るまで、これは今回の土地については平成24年に売却したわけですが、結局造成が終わってから10年以上も経過しているという、そういった状況もございます。で、その当時の造成工事にかかわったその内容を当然詳しく知っている職員、こういった職員については、この年月の間に例えば人事異動されたとか、あるいは退職をされたとか、そういった要因もあってですね、引き継ぎが不十分だったということもあるだろうし、それから、職員間の連携不足と、こういったこともあったんだろうなと。こういったことが背景として今回の、相手方に対する不十分な説明になったんだろうなというふうに考えてございます。今後につきましてはですね、二度とこういったことが起きないようにですね、慎重に対応してまいりたいと、このように考えてございます。

以上でございます。

○**福島 恭二委員** まあ、説明では何となしに、何となしにと言いますか、そういうこともあり得るのかなというふうには理解しますが、結果として今そういった阻害率やあるいはまた損失率という問題が発生しながらも双方和解にこぎつけたと、こういうことでありますから、不幸中の幸いというふうに言わざるを得ないし、私どもとしても何度も申し上げますけれども、もっとチェックをする責務もあったのかなという思いもないわけではございません。ですから、これで円満解決ということになるんだろうと思いますけども、これまでの売却するたびごとに理事者のほうから示された図面等々を見ますと、やっぱり仮護岸をきちんと避けて区画割りをして売却をしてるんですよね。で、そういうこの、前回の資料にも出ておりますけれども、ただ詳細な面が今言ったようになかったと、こういうことなんです。ですから、もう少しそういった引き継ぎも明確にされ、あるいはまたそういった資料もきちんと整備をされていればですね、そしてまた売却する時にももう少し前回も説明があったわけですが、詳しくやはり丁寧な説明をなされていれば、こういうことにならなかったのではないかなと思うわけであります。何度も申し上げますけれども、私どもとしても今後十分こういった問題については、あるやなしやのことも含めて適正な価値で、適正価格で売れる用地なのか、そうではなく利用価値の低い土地なのか、税価格等々含めてですね、十分見比べながら判断をしていかなければならないものだというふうに私自

身も改めて反省をせざるを得ないと思っておりますけれども、ともあれまあ、今回の問題についてはできればそういったきちんと引き継ぎがなされ、資料に基づいて丁寧に販売をしていればこういう問題はなかったというふうに思いますので、是非一つ今後ともこういった問題については二度とないようにですね、整理をされるようにと言いますか、再発防止に努めていただきたいなということを申し上げておきます。

で、あとですね、残されたのは1区画か2区画程度ですね。これについて、最後にやっぱりこういった問題を当然反省をしながら、売買しなければと思いますけども、これについて最終的にどういうふうに販売しようとなされているか、こういった問題があっただけにより慎重にしなければならないと思いますけれども、それらについての考え方がありましたら一つお知らせください。

○**港湾空港部長（平井 等）** 残された区画の売却についてのお尋ねでございますけれども、現時残っているのが1画分でございます。およそですね、面積が1万1,000平米ございまして、この区画についてもその埋設物の存在があるということを確認をしてございます。その売却に当たりましてですね、今定例会にもボーリング調査費ということで補正予算をお願いしてございますけれども、議決いただけたらですね、早急に調査を実施いたしまして、埋設物の位置とその面積を確定させて、それをもとに購入を希望される企業に対してはきちっと口頭ではなく、重要事項説明書、こういったものを使いながら埋設物についてしっかりと説明をして手続きを進めたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○**福島 恭二委員** わかりました。それで前段申しましたとおりですね、この教訓を経て、きちんとそういった調査をしながら、適正価格で売買をすると、このことに是非努めていただきたいと。ともあれこの問題については和解ということで双方理解の上で円満に解決された問題だというふうなことで理解をいたしまして是非今後とも十分配慮の上取り扱いをしていただくように要望して終わりたいと思います。ありがとうございました。

○**委員長（工藤 篤）** 他に御質疑、はい、出村委員。

○**出村 勝彦委員** 港湾事業特別会計について、環境整備事業費増で大町地区緑地整備事業、通称、緑の島のね、この整備に関して2億400万円の補正を組んでるわけですけど、先に市長が本会議で、答弁では利用目的というか活用で、当面、GLAYを呼んで2日間、2万5,000人ずつね、あそこでやるということでやっている。今後、イベント等に活用していくんだというようなことですがね。あそこを一部削ってですね、活用目的はイベントでやるというのはわかるんですが、どうなんですか、今後、この緑の島でですね、お宅のほうと畑違いになってくるんでないかと思うんですがね、今回の予算では港湾空港部の特別会計でやるということになっていますが、計画的、これずっとだいたい前から考えてたことだろうというふうに思ってるんですがね、やっぱりこれだけのお金をかけていくわけですからね、それなりに相当綿密に計画立ててきたんだろうというふうに私は思うんですがね、このGLAYの他にですよ、これからどういうふうなことを進めていくのか、緑の島に関してのお考え、それらをお聞きしておきたいと思います。

○**港湾空港部港湾課長（藤森 悟志）** 緑の島の整備の概要等についてのお尋ねでございますが、緑の島につきましましては、全体面積8ヘクタールのうち今回、未整備箇所3.2ヘクタールについて大規模なイベ

ントの開催を可能とするほか、多目的広場として一体的な整備を図るための整備を行うものとしてございます。年度末の事業でございますが、本年7月のGLAYのコンサートを予定しておりますので、昨年12月、補正予算を計上し、全体工事に先立ち、土砂の移設などの基盤整備工事とともに実施設計業務の委託を行ってまいりました。この実施設計につきましては本年3月に完成、これに基づきこの度の補正予算をお願いしております多目的広場及び築山の工事を9月から年度末にかけて実施するところでございます。平成26年度につきましては、既存イベントが終了する9月から年度末にかけて駐車場及び証明設備などの工事を行い、緑の島の整備の完成を目指すものでございます。緑の島の整備事業費につきましては、全体で5億円を予定しているところでございます。

以上でございます。

○**出村 勝彦委員** あんたの説明ね、さっぱりわからないよ。当初ね、この緑の島、あそこの水深が浅いということで土を上げてですよ、島を作ってあそこを多目的広場にしてくださいね、活用していくんだと。当初の考えと今回お金をかけてですよ、整備を変更していく、どういうメリットがあるのか、私はこのメリットを聞いてるんですよ。GLAYのために作ったように思われたらこれたまったもんでないですよ。そういうことじゃないんだと思うんですよ。まあ、いろいろイベントも考えて計画も立ててやってきたんだろうというふうに理解したいと思うんですが、そのことがさっぱりわからない。急にとってつけたみたいにはですね、GLAYを呼んでコンサートやるんだから整備するんだというふうにしか聞けないんですよ、一般市民にはですね。そうじゃなく、こういう目的であの広場自体がね、将来計画としてこうですよと、やっぱりちゃんと出しておかなければね、これだけのあなた、お金もかけてやる。これ実際どうなんですか、港湾整備なんかって言ったら国の補助だとかいろいろあるわけですから、その辺の実態はどうなのかね。もうちょっとちゃんと丁寧に説明しなさいよ。

○**港湾空港部長（平井 等）** 緑の島の整備についての基本的な考え方ということのお尋ねでございますけれども、今、御答弁させていただいたのは、今整備をしようとする内容についての答弁しかなかったということでございますので、その基本的考え方ということで私のほうから御答弁させていただきますけれども、緑の島につきましては、いろんなスポーツですとかそういった各種イベント会場ということで幅広く利用されておりますので、そういったイベントがGLAYのコンサートに限らずですね、多種多様なイベントに対応できるようにということで、今回、広場の間にあった築山という部分がそういった多種多様なイベントに対応するためには分断されてしまうということでですね、一部そこを崩させていただいたということで、緑の島全体をですね、使いやすいように多目的広場という意味でも広く市民一般の方に利用していただくということで今回、整備をさせていただくということでございますので、御理解いただきたいと思います。

○**出村 勝彦委員** ちょっとわかんないな。あのね、あれ作った目的も今言ったようなことで作ったんですよ。多目的にしかも市民がいろいろコンサートから何からやるのに一番ふさわしいような形態にしようということで、まあ、あんたらその当時どうだったかわからないけど。私は、矢野市長の時代ですからね、あれね、作って、だけでも今の時代にそぐわないということで将来こういう計画もいろいろ考えた上で変更してくんですよって言うんならわかるんですが、そういう説明をネグレクトしちゃってね、何も聞かされていない。そこにぽっと出てきたのがGLAYの話で、GLAYの2万5,000人、もっと

多いような計算、私は最初聞いていたのね。人を呼ぶんだと。ですから、広くとってですね、たくさんの集客をするために作るんだというふうにはかね、とられてないんですよ。そうじゃなくて、この先のいろんなイベントではね、こういう計画をもって今少しお金もかかるけどもやるんですよと。これについてはどうなんですか。費用の面全部補助もなしであれやるのか。それでメリット、市がどれだけのそれで効果を上げていくのか。まあ、いろんな面で若い人には私はこれはいいことだというふうに思う。賛成の意を表してますけれどもね。ただやっぱり費用っていうことを考えて、厳しい財政状況の中でこれだけのあれを使わせていくっていうことになれば、やっぱりそれなりのことは周知する必要があるんじゃないかというふうに思うんですよ。だからその辺をちゃんと説明してちょうだいって言ったの、わかるように。

○**港湾空港部港湾課長（藤森 悟志）** 緑の島の事業の関係でございますが、緑の島につきましては、合併特例債を用いて事業を実施することとしてございます。（「それも借金だよな」と出村委員）先ほどの御答弁申し訳ありませんでした。緑の島につきましては、昭和60年の港湾計画の一部変更におきまして、港湾の環境整備の推進、港湾利用者の憩いの場、市民が港や海に親しむ場、多くの人々が集い、楽しむスポーツする場などを基本といたしまして、平成3年の南側から緑地工事に着手し、平成6年から完成した緑地を順次供用させながら工事を進めてまいりました。このような中、緑の島につきましては、各種スポーツやイベント会場として利用され、市民の憩いの場、交流の場として活用されていたところでございます。年間の利用者数につきましては、13万人程度利用されているところでございます。そのような中、未整備となっていた3.2ヘクタールにつきまして芝生広場及び駐車場として暫定的な整備を行ってまいりましたが、この度、先ほどもお話もございましたがGLAYの話もございまして大規模なイベントの開催を可能とするほか多目的広場として一体的な利用を図るということを目的といたしまして今回、平成24年、25年、26年の3カ年をかけて市民の方々が使いやすい港湾緑地として整備することとして決定したものでございます。

以上でございます。

○**出村 勝彦委員** まあ、これで私やめますけどね、本来の利用目的は、お宅のほうはこれ港湾の事業特別会計で整備はするというものの、活用のそういう視点はコンベンションのほうでやっていくんだろうというふうに思うんでね、その辺、今日来てねえな、経済建設にはなるんだろうけども来てないね。よく十二分に連携を取りながら、この広場についての事業関係に対応してもらいたいと申し上げて終わります。

○**委員長（工藤 篤）** 他に御質疑ございませんか。はい、吉田委員。

○**吉田 崇仁委員** 私ですね、5月に委員会構成変わりました経済に入ったもんですから、この議案第12号のですね、物品購入の件についてちょっとお尋ねしたいんですけど、ブラインクーラーって一体どういうものなのか、何の目的があるのかちょっとお尋ねしたいと思います。それとですね、できれば図面か何かありましたらそれもほしいんですけど。

○**農林水産部市場課長（藤谷 博之）** 購入物品の内容についてのお尋ねですけども、ブラインクーラーなんですけども、冷凍機のことですと、青果物地方卸売市場の冷蔵庫棟の冷却に使う機械でございます。現在、青果物地方卸売市場の冷蔵庫棟60馬力と100馬力のブラインクーラーを備えてございますけども、

それで18室の冷蔵室を温度制御行っているところでございます。今回そのうち100馬力の物を更新するものでございます。あと、図面なんですけれども、写真はあるんですけども、こちらの機械になります。

○吉田 崇仁委員 これによって今まで以上に性能が良くなるって言いますか、冷蔵庫の中の冷えるのが良くなるってことなんですね。

○農林水産部市場課長（藤谷 博之） 今回更新に至った理由なんですけども、当該冷蔵庫棟、築後37年経過してございます。で、機器の老朽化によりまして非常に能力が低下している中で特にこのブラインクーラー常時2台が運転するような形になってございまして、非常に故障の危険が高まっております。そういうような状況で万一故障が発生した場合に冷蔵庫の利用業者の保管物品の賠償責任も出てきます。さらに市場としてですね、品質管理ができないというような市場機能としてマイナス面も出てくるものですから今回更新させていただいたということとなります。なお、60馬力のブラインクーラーにつきましては、昨年既に更新済みでございまして、今回この2台全て更新することによって、冷蔵庫棟の機能は完全に回復するというような状況となっております。

以上です。

○吉田 崇仁委員 わかりました。

○委員長（工藤 篤） 他に御質疑ありませんか。はい、本間委員。

○本間 勝美委員 おはようございます。私のほうからですね、港湾に関して港町ふ頭のコンテナヤード施設運営費増についてと大町緑地基盤整備について、この2つちょっと質問させていただきます。

まず、港町ふ頭のコンテナヤード施設運営費増ということで、大型クレーンの復旧等経費2,000万円が計上されてますが、クレーンの復旧経費の内容についてちょっとお聞きしたいと思います。

○港湾空港部次長（松塚 康輔） 大型クレーン復旧等経費の内訳についてお尋ねですが、大型クレーンの復旧への対応経費といたしましては、函館どつく株式会社へ発注いたしましたワイヤーの制作費といたしまして295万9,000円、また、三菱重工マシナリーテクノロジー株式会社が行うワイヤー交換費といたしまして285万700円、また荷役への対応経費といたしまして大型クレーンが復旧するまでの間なんですけど、代替クレーンの使用料、こちらのほうが1,018万円、代替クレーンの運送料や組立解体料などの段取りの経費369万6,000円、諸経費41万3,280円の合計1,418万9,280円を港町ふ頭コンテナヤード施設の管理受託者としての代替クレーンの手配を行った株式会社函館国際貿易センターへの委託料として計上したものでございます。大型クレーンの合計ですと、大型クレーンの復旧等経費全体で2,000万円を補正予算計上したものでございます。

以上でございます。

○本間 勝美委員 改めて大型クレーンの故障の原因についてちょっと御質問します。

○港湾空港部次長（松塚 康輔） 故障の原因についてなんですけど、現在月1回なんですけど、月次点検というものを行っております。このメンテナンス業者である三菱重工マシナリーテクノロジー株式会社が行っているところでは、3月に月次点検を行ったところコンテナをつり上げるワイヤーがよじれ、芯が切れて破損しており、交換しなければならないと、そして使用できない条件があるとの報告がなされたところでございます。故障の原因につきましては、メンテナンス業者によりまして、ワイヤーロープを巻き取る時に何かが引っかかったか、それともワイヤーロープを緩めてまたこう巻き取る時

にワイヤーのよじれが発生したか、というようなことが推測されると聞いております。

以上でございます。

○**本間 勝美委員** 私も昨日、港町ふ頭に行ってきました現地をちょっと見てきたんですけども、大型クレーン、コンテナを積むクレーンですよね、で、函館港には韓国の南星海運さんが週1回でしたっけ、（「週1回」の声あり）週1回運行されているということです。大型クレーンと港町ふ頭のコンテナの関係も含めて、どういう状況になっているのかもちょっとお聞きしたいんですけども、お願いします。

○**港湾空港部次長（松塚 康輔）** 大型クレーンと港町ふ頭の使用状況についてのお尋ねですけども、大型クレーンの使用状況につきましては、平成24年度の実績で申し上げますと、今、副委員長から御指摘のように、週1回運行しております定期コンテナ航路において年50隻のコンテナ船の寄港により20フィートコンテナに換算しまして2,900個の取り扱いをしたところでございます。これは震災の影響などで急激に取扱量が増加した平成23年度に比べ減少しているものの、平成22年度からは約30%の増加となっておりまして、年々増加傾向にあるコンテナの積みおろしのため、大型クレーンの使用頻度につきましても高くなっているものと認識しております。また、定期コンテナ以外の港町ふ頭の使用につきましては、平成24年度において鉄くずなどを運ぶ3,000トン弱の貨物船から5万トンを超える客船など合計で57隻が使用しており、若干ではありますが年々増加傾向にございます。

以上でございます。

○**本間 勝美委員** 今、コンテナについては年々増加傾向ということで、これは嬉しい話題なのかなと思います。で、聞いたらですね、函館の大型クレーンっていうのは特注品だよと、函館しかないものというようなお話を聞きました。で、年々増加傾向っていうことなので、耐用年数の関係とかも、これからは経年劣化の関係も出てくると思いますので、大型クレーンの故障は今後もしかすると起きる可能性もあると思いますので、今後の対策について最後にお聞きしたいと思います。

○**港湾空港部長（平井 等）** 今後の事故等の対策についてのお尋ねでございますけれども、先ほども御答弁いたしましたように、月1回の点検、これは毎月やるわけですけども、その他に年1回の大型点検ということで、そういった点検の際にですね、不具合の箇所、なるべく早期に発見できるようにしたいというふうに考えてございます。それから、今回ワイヤーを制作するに当たって、制作の期間っていうものがかったわけですけども、そういったことがないようにワイヤーの予備をしっかりと用意するとか、あるいはメンテナンスを行っていただいている業者さんにワイヤーの操作の適正な仕方だとか、そういったことの講習会等も開いていただくというようなことで、今後におきましてもしっかりとこういった故障あるいは事故等にですね、対応してまいりたいと、このように考えてございます。

○**本間 勝美委員** この件についてはわかりました。

次に、大町地区の緑地基盤整備、緑の島ですね、今も出村委員のほうからもお話がありましたけれども、これについて若干御質問したいと思うんですが、緑の島も昨日行ってきました。今回の整備は既に終わっていて、G L A Yの野外ライブをいつでもできますよというような今状況になってるんですけども。多目的広場のカラー舗装っていうものが今回の予算の中にも入っているということで、お聞きしました。緑の島っていうのは函館山からも丸見えって言いますかね、見えますよね。ミシュランのグリーンガイドの三つ星にも指定されている函館山からの眺望ということで、このカラー舗装で緑の島ですね、

函館山からの景観に与える影響ってということも考えられるのかなと思ひまして、そのカラー舗装についての整備の仕方ですよね、その辺のちょっと状況をまず一つ確認させてください。

○**港湾空港部港湾課長（藤森 悟志）** 緑の島の北側多目的広場のカラー舗装についてのお尋ねでございますが、北側の多目的広場につきましては、お話でございましたとおり、函館山からの景観に配慮し、カラー舗装といたしますが、事例といたしましては国道のバスレーンなど施工されている、着色されている舗装と同様のものとなっております。また、舗装の色の決定でございますが、特に景観に配慮したものとするため、函館市の景観アドバイザーからの意見をもとに白色として整備をすることとしていくところでございます。

以上でございます。

○**本間 勝美委員** 白色っていうとすごい真っ白のような、雪のようなイメージなんですが、あれですよね、周辺に与える影響がないような感じで。

○**港湾空港部港湾課長（藤森 悟志）** 与える影響がないような、白といってもコンクリートのような、グレイ系の白の予定でございます。よろしくお願いいたします。

○**本間 勝美委員** わかりました。

もう一つはですね、イベントもできる多目的広場ってことなので、私、風の対策ですよね。この間、函館市内でイベントがたくさん開催されていると思うんですけど、大門のグリーンプラザあるいは朝市の駐車場等々で風によるテントの倒壊というような事故が起きてますね。で、緑の島は御存じのように三方を海に囲まれた、島だから全て海なので、囲まれてるんで、まあ、南のほうは函館山があるんで風対策はしなくてもいいのかなと思うんですが、東側あるいは西側、北側、三方から風が吹き付けると。今後、そういう大型なイベント開催する時には風が強風時にやっぱり安全対策っていうか、そういうことを考えていかなければならないのかなと思うんですが、風対策について今回の整備でどのようなことになっているのか、お聞きします。

○**港湾空港部港湾課長（藤森 悟志）** 緑の島のイベント開催時の風対策についてのお尋ねでございます。

緑の島におけるイベントにつきましては、大半が春から夏にかけて開催されているところでございますが、整備済みとなっている南側の多目的広場に関しましては、この時期に多い南西から南東の風を防ぐために函館山から金森倉庫側となりますが築山を築造し、植樹を行い風対策を行っているところでございます。この度の整備箇所につきましては、昨年12月の補正予算による基盤整備工事におきまして、盛り土部分の土を利用し、金森倉庫側となりますが連続した築山を築造したところでございます。今回の補正によりまして、この築山に植樹を行い、既存の広場と同様に風対策を行うものとしてございます。

以上でございます。

○**本間 勝美委員** 風対策は十分だということですのでよろしいですか、はい。安全対策というのはですね、風だけではないと思うんですが、港湾に面した島という特性もありますんで、2万5,000人という函館でも初めての企画でもありますんで、その辺の安全対策について今考えられていることについてちょっともしわかれれば教えていただきたいと思います。

○**港湾空港部次長（松塚 康輔）** G L A Yの函館野外ライブの開催に係る安全対策についてのお尋ねでございますが、7月27日、28日のG L A Y野外ライブには1日約2万5,000人の観客を見込んでおりまして、会

場となる緑の島では大規模なイベント開催が可能となって初めての実施となります。野外ライブにおきましては、観客等の安全対策に関しましては、現在、当該ライブの企画運営の主体である札幌のWE S Sが市をはじめ関係機関との調整を行い、警備計画の作成を進めておりますが、会場である緑の島に係る具体の対策は緑の島外周に警備員の配置を行い、転落防止等の監視を行うとともに函館海上保安部の協力を得まして、万が一の転落者の救助活動を整えております。また、観客の入退場となる新島橋の誘導に関しましては、最新の注意を払い、特に退場時には橋の上の人数の制限を行う分断対峙を行い、観客が集中しての将棋倒しや橋からの転落などの事故防止を図るなどのほか、主催者として観客及び関係者の安全確保に係る計画を進めている状況でございます。いずれにしましても、市としては警察をはじめ関係機関と情報を共有し、連携を密にして主催者としての安全対策に万全を期すよう指導してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○本間 勝美委員 私もこの新島橋、緑の島は1箇所しか入り口がないので、この新島橋に本当に大勢の観客が殺到した場合のことをちょっと心配してましたので、今お聞きしたらその辺の対策はされているということで少し安心しました。今後の課題としては、今回の、隔年開催でしたっけ、GLAYの野外ライブは聞くところによると、今年だけではなくて、またさらにやるよっていう話も聞こえてきますんで、今、トイレが1箇所しかありませんよね。なので、今回の開催を経験してまたいろんな課題とかが見えてくると思いますんで、そういった課題を洗い出して今後につなげていただければいいかなと思います。

以上です。

○委員長（工藤 篤） 他に御質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（工藤 篤） それでは、質疑を終結いたします。

ここで理事者は御退室ください。

（農林水産部・土木部・都市建設部・港湾空港部 退室）

（企業局 入室）

○委員長（工藤 篤） 次に、議案第4号平成25年度函館市水道事業会計補正予算を議題といたします。

御質疑ありませんか。

（「なし」の声あり）

○委員長（工藤 篤） 御質疑ありませんので、質疑を終結いたします。

ここで理事者は御退室ください。

（企業局 退室）

○委員長（工藤 篤） これより各事件に対する協議を行います。

当委員会に付託されました議案12件について、順次、各会派の賛否をお伺いいたします。

最初に、市政クラブさん。

○出村 勝彦委員 全議案賛成。

○委員長（工藤 篤） 全議案賛成ということですね。

次に、民主・市民ネットさん。

○見付 宗弥委員 同じです。

○委員長（工藤 篤） はい。

次に、公明党さん。

○小林 芳幸委員 公明党も全部賛成です。

○委員長（工藤 篤） はい。

市民クラブさん。

○井田 範行委員 全部マルです。

○委員長（工藤 篤） はい。

日本共産党さん。

○市戸 ゆたか委員 私たちも全部マルです。

○委員長（工藤 篤） はい。一通りお聞きしましたので、各会派の採決態度の確認をいたします。

市政クラブさん、民主・市民ネットさん、公明党さん、市民クラブさん、日本共産党さん、全て賛成、マルということですので、御確認をお願いいたします。

ここで何か御発言ありますか。

（「なし」の声あり）

○委員長（工藤 篤） ありませんので、発言を終結いたします。

それでは、これで協議を終わります。

ここで事務調整のため再開目途を11時10分とし暫時休憩いたします。

午前11時03分休憩

午前11時13分再開

（農林水産部・土木部・都市建設部・港湾空港部・企業局 入室）

○委員長（工藤 篤） それでは、休憩前に引き続き、会議を開きます。

これより各事件について採決いたします。

議案第1号平成25年度函館市一般会計補正予算中当委員会付託部分、議案第2号平成25年度函館市港湾事業特別会計補正予算、議案第4号平成25年度函館市水道事業会計補正予算、議案第8号函館市北海道営土地改良事業分担金等徴収条例の一部改正について、議案第9号函館市中高層建築物の建築に係る紛争の予防および調整に関する条例の一部改正について及び議案第12号物品の購入契約についてから議案第18号和解についてまでの以上12件を一括して採決いたします。

各案は原案のとおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（工藤 篤） 異議がありませんので、各案は原案のとおり可決いたしました。

ここで理事者はご退室ください。

（農林水産部・土木部・都市建設部・港湾空港部・企業局 退室）

○委員長（工藤 篤） お諮りいたします。委員長の報告文につきましては、委員長に一任願いたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

○委員長（工藤 篤） 異議がありませんので、そのように決定いたしました。

以上をもちまして、本委員会に付託されました事件はすべて議了いたしました。

2 その他

○委員長（工藤 篤）

- ・ 次に、2のその他だが、まず私から1点、当委員会の所管事務調査について御相談させていただく。先に行われた中間改選により、当委員会も新たな委員構成となったわけだが、正副としては今後の委員会活動の中で所管事務調査を効果的、かつ効率的に行っていきたいと考えている。委員会の調査事件として取り上げる項目について、各委員から何か御提案があれば、調査の主旨、目的も含めここで御発言をお願いしたいと思うが、発言あるか。（発言なし）

○委員長（工藤 篤）

- ・ 調査項目について、今すぐに提案するということは難しいかと思うので、各委員におかれては後ほどでもよいので、何か調査項目の提案があれば事務局まで御連絡をいただきたい。今後の委員会等の中で改めて協議していきたいと思うのでよろしくお願いします。各委員からの御提案がなければ、正副委員長で案を作成し、次回改めて協議したいと思うが、そのような進め方でよいか。（異議なし）
- ・ その他、各委員から発言あるか。（なし）
- ・ 散会宣告

午前11時16分散会